

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500161		
法人名	有限会社 ティーム		
事業所名	グループホーム うらら		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町塩屋121-10		
自己評価作成日	平成24年3月31日	評価結果市町村受理日	平成24年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成24年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サプリメントを提供し健康管理に努めている。
活動の日を設定し、外出の主に、地域の行事の見学に出かけたり、また系列事業所である”ひなたぼっこ”を訪問したりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊万里湾を望む静かな住宅街に位置する、民家改修型のグループホームであり、男性入居者が6名、女性が1名という状況である。広々とした建物の造りの中で、明るくのんびりと過ごされ、また、近くには医療機関、学校、公民館等があり、リビングの大きな窓から、通学風景や生活風景等が望め、生活感が感じられる落ち着いた環境の中にある。「人として仲間・友のように友情をもって、一緒に生活していく」という信念のもと、系列の他のグループホームとの連携を図りながら、入居者の人格を尊重し入居者の目線に立つと言う事を意識しながら、日々支援されているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	信念の詩を唱和している。	ホーム内に掲示されると共に、申し送り時等に読み合わせを行うことで、理念を確認し振り返りの機会を持たれている。理念は職員全体で共有され、日々のケアの中で実践に向け努力されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	波多津町の港まつり見学。黒川町ふるさとまつり見学。	ふるさと祭りの見学、夜神楽の見学、散歩ののりあいの挨拶等はなされているが、ホーム周辺の人的環境も変わり、日常的な関わりが減ってきている。	日頃から近隣住民や地区との連携に努め、災害訓練のときには協力が得られたり、ホームの資源を地域に還元できるような関係の構築に、今後取り組んで行かれることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際のケアの取り組みを紹介し、ホームのサービスについて理解して頂けるように努めた。	運営推進会議は計画は立てられたものの、実施には至らず現在休止状態となっている。	入居者本人、家族、近隣住民、市、地区の代表者等々参加メンバーも検討しながら、設定しやすい環境を整え、ホームが孤立しないためにも再開されていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話での連絡、相談を行い、協力関係を築いている。また、運営推進会議においてケアの取り組みについて報告した。	相談したい事があれば電話で気軽に相談できる関係作りに努められている。震災の際等、受け入れ要請があれば体制を整え協力する等、日々市町村との連携は図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを読み合いながら、勉強会を行い取り組んでいる。	マニュアルを利用して学習会が開かれたり、外部研修に参加された職員からの伝達研修の実施など、身体拘束をしないケアの大切さについて理解を深められている。現在、玄関の施錠を含め拘束はされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者に対する言葉遣いに注意し配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらを活用できるように勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置したり、面会や家族への連絡時にお尋ねし、反映させている。	玄関に意見箱が置かれると共に、面会や電話連絡のみに、意見の聴取に努められている。電話での連絡やプランの郵送時等には、近況が報告され、折り返しで意見や希望が聴取できるようにも努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員採用時など職員の意見も積極的に反映させている。	申し送り時や日頃からコミュニケーションを密にするなどして、職員からの意見の聴取に努められている。職員の意見により勤務時間を変更する等、対応できる事は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。(処遇改善助成金の申請を行い、給与水準アップに努めた。また、食事会や研修旅行(温泉・マッサージ)等を行い、職員の慰安にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の状況を把握し、研修、勉強会の機会や個人的な成長の機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーの研修会に定期的に参加したり、グループホーム同志のやり取りを通して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	優先的に声かけし、生活歴などの情報収集を行い、理解や関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	耳を傾け意向、要望確認しつつ、こまめな報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況や、本人、家族のニーズを確認しつつ検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り同じ立場に立つよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに本人の様子を電話や面会時、ホームのおたよりを通して報告し、家族からの意向も確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	活動の日を設定し実践している。地元の祭りにも参加している。	地元出身の入居者が多く、家族、知人の面会も多い。近隣を散歩する中で、馴染みの方と話したり、地元の祭りへの参加、馴染みの床屋の利用等、その関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが話し合い助け合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常に生活の中(健康チェック時、10時、おやつ時など)で希望、意向を把握し、共同作業時でも個別対応に心がけている。	収集した情報や日頃の会話や言葉の中から、入居者本人のしたい事等を把握し、希望に基づいた計画が実施されている。気づいた事はその都度ノートに記載し、その思いが把握できるよう日々努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子を見、話をうかがいながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時や電話などで状況報告、希望確認など行いながら3ヶ月に1回ケアプランを作成している。	家族の意見を踏まえて、担当者会議の中でモニタリングが行われ、3ヶ月ごとの評価見直しが実施されている。計画については職員全体で情報を共有し、プランに基づいたケアに努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月に1度は必ずモニタリングを行い職員全体で情報を共有しながら計画の見直しを行っている。また申し送りノートを活用し、こまめに気づきを記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様なニーズに対応し、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源や公民館行事の把握に努め、時々参加し活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族や希望される医療機関の受診が出来るよう支援している。また、近医に協力医療機関となって頂き、定期的な通院介助や往診を受けながら密な連携を図りつつ医療支援を行っている。(唐津市 野口内科受診対応も行う。)	本人、家族の希望するかかりつけ医のもとで、受診が行われている。受診についてはホームで対応し、家族への報告が行われている。協力医療機関との連携も図りながら、適切な医療を受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報を共有し、適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院訪問し、情報提供を頂き、退院時、後は病院のケースワーカーと連携を図り、行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には、指針を基に本人・家族の意向を確認しながら、医療機関と連携を密に行いながら、職員の意思の統一を図りつつ取り組んでいる。	契約時にホームの方針は説明され、本人・家族の意向も確認されている。終末期には、主治医や家族、職員全体で話し合いの場を持ち、適切な支援を受けられるよう連携が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは準備し、基本的なことは理解している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	備蓄をしたり、原発事故や災害時の避難場所を確認している。	非常時の備蓄、消防訓練、夜間想定訓練等も実施されているが、地域との協力体制はまだ築かれていない。	運営推進会議等を通し、火災のみならず風水害、地震等々の災害時に、協力が得られるよう、地域との協力体制を築いていかれる事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士がお互いに気をつけ合いながら行っている。	人生の先輩として敬い、言葉遣いや対応には管理者を中心に、職員全体で気をつけられている。気になる事があれば、その都度注意を促す等、入居者一人ひとりを尊重した支援に日々努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を確認したり、尋ねたりし、可能な限り希望に沿った支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態を把握し可能な限り希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の10時の水分補給時には身だしなみチェックをさり気なく行い、髭剃り、整髪、衣服調整などを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けなど出来る限りにとことろで一緒に行っている。	入居者の希望に応じたメニューを設定したり、外食の機会を設けたり、一人ひとりが食事を楽しめるよう努められている。また、配膳、下膳、茶碗拭きといった活躍の場も設けら、職員も同じ食事を一緒に摂りながら、さりげない支援に努められている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その状態に応じて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの介助、見守り、自力など、それぞれに応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しながら、定期的な声かけ誘導をしたり、様子観察を行いながら、一人ひとりの排泄状態に応じ支援している。	入居者一人ひとりの排泄のリズムを把握し、声かけ誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人に応じた対応として体操、水分摂取、食事など気がけながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回(火・木・土)の入浴日を設けているが、希望があれば、その日以外も入浴することは出来る。朝風呂を望まれる方もおり対応している。	入浴日は設定されているが、希望に応じて、いつでも入浴することができる体制がとられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状態に応じて休憩、午睡、就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その人の状態に応じて、注意して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り、その人に合った楽しみや一日の過ごし方ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	活動日の天気の良い日には、近所を散歩やドライブをし戸外に出かけられるよう努めている。家族の協力を得て外出や外食に出かけ、希望にそえるよう努めている。	ホーム周辺の散歩、近隣へのドライブ、買い物等の外出の機会が設けられている。家族との外出の支援も行われたり、昼食やおやつを外で摂る等、入居者の希望に添った外出の支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方に応じて対応、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて行っている。年賀状なども出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り物をし、居心地よく過ごせるよう工夫している。時々リビングのテーブルなども配置換えをしている。	玄関やリビングには季節の花々や、入居者の作品等が飾られ、明るく開放的な雰囲気である。見晴らしがよく、いつでも外の景色が眺められるようカーテンが開けられ、思い思いの場所でくつろげるよう、ソファ等の配置にも工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの様様替えを行い、対面式にソファを配置したり、ソファを増やすなどして、個々に応じたくつろぎ空間作りに工夫した。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が使い慣れたものや大事にしていた物等、本人の希望に応じて持ち込んで頂いている。	入居者一人ひとりの状態や好みに応じ、思い思いの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを始めとし、目印や張り紙などで分かりやすくしてなるべく自立、自力で出来るように支援している。		